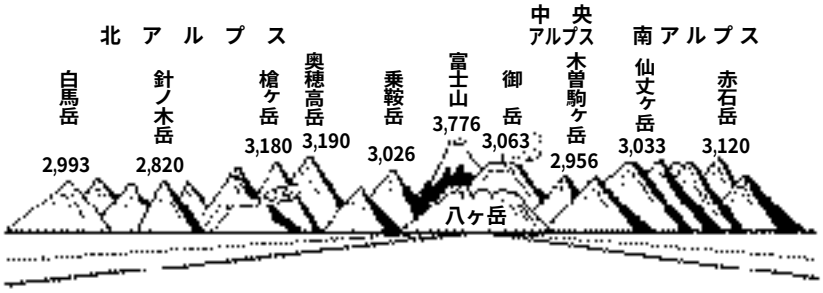
第　37　号
平成18年2月



みんなのために　未来のために
NAGANO

砂防ニュースレター"長野"

１月26日(木)、27日(金)に、白馬村及び小谷村において、雪崩防災シンポジウムが開催され、26日のシンポジウムには、約470名の参加がありました。 写真は、主催者あいさつを行う国土交通省亀江砂防部長と、ミニコンサートにおけるアルペン・ブラスカペレと白馬村・小谷村の小学校の皆さんです。

目　　次

第67回長野県治水砂防協会通常総会 …… 2
長野県治水砂防協会設立70周年記念行事 …… 3
新正副会長あいさつ …… 4
全国治水砂防促進大会開催・要望活動 …… 5
環境砂防会議開催 …… 5
砂防講演会、県砂防課長との懇談会 …… 6
協会活動に関するアンケート実施結果 …… 6
現地研修会を2回開催 …… 7
土砂災害警戒区域等の指定状況 …… 7
維持管理ボランティアの活動状況 …… 8
小川村薬師沢の今昔 …… 9
浅間山噴火への対応状況と今後の取組み …… 10
砂防ボランティアだより …… 11
旧会員からのあいさつ（旧町村長） …… 12

長野県砂防課のマスコット
“サー坊”

砂防事業キャッチフレーズ

今、日本の屋根信州から新・砂防の発進を

第67回長野県治水砂防協会通常総会開催

平成17年８月９日の午後、長野市において、第67回通常総会が多数のご来賓の方々をはじめ、県内市町村長並びに関係者の出席のもと、盛大に開催されました。

総会では、山田一榮会長のあいさつのあと、来賓として、国土交通省砂防部長亀江幸二様、社団法人全国治水砂防協会理事長大久保駿様、前衆議院議員村井仁様、長野県議会土木住宅委員長向山公人様、長野県土木部長原悟志様の５名から祝辞をいただきました。また、議事に先立ち砂防事業の促進に功績のあった中島学氏（旧四賀村長）をはじめ５名の方の功労者表彰が行われました。

議事では、平成16年度事業報告・収支決算報告、平成17年度事業計画案・収支予算案について審議され、いずれも原案どおり可決されました。続いて、任期満了に伴う役員の改選が行われ、３期６年にわたり会長を務めた山田一榮氏に代わり、新たに生坂村長の寺島宗正氏が会長に選出されました。また、副会長には信州新町長の中村※氏、大町市長の腰原愛正氏、駒ヶ根市長の中原正純氏が選出されました。

議事終了後、社団法人全国治水砂防協会の大久保理事長様から、「砂防事業の推進と砂防協会」について、明治維新後の国における砂防事業の推移と砂防協会の歴史について、パワーポイントを交えながらのお話をお聞きしました。

砂防事業功労者

中島　学（なかじま まなぶ）	… 長野県治水砂防協会犀川支部役員として、永年にわたり管内の治水砂防事業の積極的な促進と支部の発展に寄与した。
石田正明（いしだ まさあき） 塩入正信（しおいり まさのぶ） 増沢孝徳（ますざわ たかのり） 金子政利（かねこ まさとし）	長野県職員として永年にわたり砂防事業に従事し、事業推進に尽力した。

新役員名簿（平成17年８月９日現在）

役　名	氏　　名	職　　名
会　長	寺島宗正	(生坂村長)
副会長	中村　※	(信州新町長)
〃	腰原愛正	(信濃川姫川水系砂防工事促進期成同盟会長・大町市長)
〃	中原正純	(天竜川上流直轄砂防事業促進期成同盟会長・駒ケ根市長)
常任理事	佐々木定男	南佐久支部長（佐久穂町長）
〃	青木　一	中高支部長（中野市長）
理　事	佐藤雅義	北佐久支部長（軽井沢町長）
〃	堀内憲明	上小支部長（丸子町長）
〃	（不　　在）	諏訪支部長
〃	高坂宗昭	上伊那支部長（飯島町長）
〃	小木曽亮弌	下伊那支部長（根羽村長）
〃	下野戸　豊	木曽支部長（三岳村長）
〃	山田一榮	松塩筑支部長
〃	（不　　在）	豊科支部長
〃	腰原愛正	大町支部長（大町市長）
〃	宮坂博敏	更埴支部長（千曲市長）
〃	久保田勝士	須高支部長（高山村長）
〃	遠山秀吉	長野支部長（飯綱町長）
〃	柳澤萬壽雄	飯水岳北支部長（木島平村長）
〃	小林三郎	姫川支部長（小谷村長）
監　事	山﨑袈裟盛	(池田町長)
〃	福島信行	(白馬村長)
〃	北沢伊紘男	(美麻村長)

長野県治水砂防協会設立70周年記念行事開催

当協会は昭和９年に「長野県治水砂防協会聯合会」として設立され、昭和10年に現在の名称に改称し、以来70年にわたって活動してまいりました。平成17年はその節目にあたり、設立70周年記念事業としてシンポジウム及び記念式典を、通常総会の日程とあわせ、８月９日に実施しました。

シンポジウムは、テーマを「中山間地域の暮らしと砂防」として、通常総会に引き続き開催いたしました。基調講演には前小谷村長の郷津久男氏をお招きして、発生からちょうど10年となる「平成７年姫川災害」についてお話をいただいたほか、平成16年に発生した新潟県中越地震の状況と対応について、前新潟県山古志村企画課長の青木勝氏からも「新潟県中越地震と山古志村」と題してお話をいただきました。お二人の講師からは、下流を災害から守る上流の中山間地の大切さ、心のふるさとである中山間地を守る意味を教えていただきました。続いてのパネルディスカッションでは、青木勝氏に加え、信州大学名誉教授の北澤秋司氏、全国の崩壊地を訪ねられている青木奈緒さん、当協会長の寺島宗正氏、県内の観光地を代表して長野県白馬村長の福島信行氏、京都から小谷村に移転されたペンション経営者の辻川彰氏、国土交通省砂防部長の亀江幸二氏をパネリストに迎え、「中山間地における土砂災害と砂防について」「中山間地の大切さ、都市住民との相互理解」について御意見をお聞きしました。

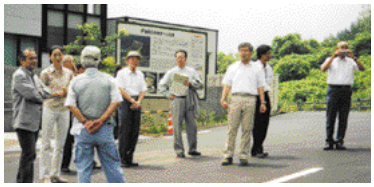
パネリストの皆さんはいずれも災害を受けた経験や、被災地をご覧になった経験があり、中山間地における土砂災害の恐ろしさと砂防設備等の必要性のほか、都市部と中山間地の住民がお互いを理解していないのではないか、そこを埋めるためにはどのように情報を発信していけばよいか、などについて議論されました。

シンポジウム終了後、記念式典を開催いたしました。式典には会員のほか、国土交通省からはシンポジウムに引き続き砂防部長の亀江幸二氏や県内直轄事業に係る３事務所長が、全国治水砂防協会からは顧問の唐沢俊二郎氏、理事長の大久保駿氏、砂防図書館長の関戸研一氏、前常務理事の小林英昭氏がお見えになり、このほか長野県選出国会議員、長野県議会土木住宅正副委員長や関係県会議員、長野県土木部長や現地機関所長などの参加がありました。

式典では、多くの来賓からの祝辞のほか、平成６年から会長を務めた永井泰美氏及び平成１１年から会長を務めた山田一榮氏に対し、長年にわたり会長職をつとめ、当協会の発展に多大な寄与があったことに対し、特別功労者表彰を行いました。

翌日は、北澤名誉教授、青木奈緒さん、歴代長野県砂防課長とともに、長野市松代町の真田宝物館に赴き、善光寺大地震を記録した古文書を特別に公開していただきました。地震後の災害現場を詳細に記録した絵図に関する説明をお聞きしたほか、現在の状況写真と比較し、非常に正確な記録が残されていることに驚きました。

その後、発生から20年となった長野市地附山地すべり跡地の公園に向かい、長野県砂防ボランティア協会の唐沢行雄会長から当時のお話をお聞きしたほか、観測センターや公園に点在する地すべり防止施設を見学しました。なお、このシンポジウムの模様に、姫川災害や平成16年の災害の状況を現地で取材した映像を加え、「山里をまもる～長野県治水砂防協会70周年記念シンポジウム～」と題した30分番組が９月３日に長野放送で放映されています。



新正副会長あいさつ

「会長就任あいさつ」

長野県治水砂防協会長　寺　島　宗　正

長野県治水砂防協会は、全国に先駆けて昭和９年に設立され、全国治水砂防協会創立のため尽力するなど、砂防事業の先進県として活躍、貢献してまいりました。このたび、皆様のご推挙を頂き、この歴史ある長野県治水砂防協会の会長職に就任いたしました。折しも協会設立７０周年記念の年と重なり、その重責に身の引き締まる思いであります。

さて、最近の砂防事業を取りまく環境は、公共事業費の削減、ハード対策重点からソフト対策へ、また平成の大合併による会員の減少等、大変厳しい状況にあります。砂防事業の必要性は申し上げるまでもありませんが、平成16年10月の台風23号は県内各地に大災害をもたらし、砂防施設の大切さを改めて痛感したところであります。土石流等の災害から県民の生命と財産を守り、地域に根付き安心して暮らせる郷土づくりのため、微力ではございますが、これからも会員一丸となって、なお一層の努力を重ねていく所存でありますので、関係各位のご支援とご協力を心よりお願い申し上げ、就任のあいさつといたします。

「役員就任にあたって」

長野県治水砂防協会
副会長　中　村　　[redacted]

昨年8月に開催された、第67回通常総会の席上、副会長を仰せつかりました土尻川治水砂防協会長で、信州新町長の中村[redacted]でございます。会長を補佐し、当協会の発展に尽力してまいる所存でございますので、よろしくお願いいたします。

砂防事業は、国土を保全し国民の生命・財産を守る国の施策の基本であることは、言うまでもありません。

四季折々の美しい自然に恵まれた長野県は、一方で地形が急峻、地質構造も複雑且つ脆弱であり、砂防事業は、県民の生命と財産を守り、安全で安心して暮らせる地域づくりを実現する根幹的事業として、積極的に取り組まれてまいりました。国・県関係各位のご理解とご協力に対し、心から感謝申し上げますとともに、「忘れた頃にやってくる災害」に対し、危機管理意識を常に共有する防災対策と、治水事業の重要性・必要性を充分認識され、公共事業における逆風と厳しい財政状況下ではありますが、特段のご配意を賜わりますようお願い申し上げ、ごあいさつといたします。

「役員就任にあたって」

長野県治水砂防協会
副会長　腰　原　愛　正

長野県は、豊かな自然に恵まれ、大変美しい環境にありますが、一方で、水害や土砂災害を受けやすい地勢でもあり、これまで、幾度となく台風や大雨の度に地域住民の生活が脅かされ、経済活動にも大きな影響を生じてまいりました。特に最近は、地球温暖化の影響か、世界規模の異常気象が常態化し、一旦災害が発生すると局地的で記録的な被災状況となっています。

そのような中、先人の長年にわたる治水砂防事業の積み重ねの上に築かれてきた郷土の発展をより安定的で確実なものとし、住民生命・財産を水害や土砂災害から守るため、治水砂防事業を計画的に進め、安全で安心できる地域を形成することは極めて重要なことと考えます。

今後、従来より進められているえん堤整備事業や護岸整備事業などハード事業のさらなる拡充はもとより、新たな取り組みとして、土砂災害防止法や、改正された水防法による、危険区域の周知や警戒避難体制の整備などソフト対策についても早急に推進する必要があると存じます。

いずれにいたしましても、治水等に関する事業推進には弛まぬ努力が必要であります。今後も国・県に協力しながら予算確保等事業の推進に努力する所存でございます。

「役員就任にあたって」

長野県治水砂防協会
副会長　中　原　正　純

会員の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。本年も皆様にとりまして健康で良い年でありますよう心からお祈り申し上げます。

昨年8月9日開催の長野県治水砂防協会通常総会におきまして、会員皆様のご推挙により副会長に就任いたしました駒ヶ根市長中原正純でございます。

寺島会長を補佐いたしまして長野県治水砂防協会の活動に、微力ではありますが最善の努力をして参りますので、皆様の更なるご支援をお願い申し上げます。

さて、本県の地形は急峻の上、地質は脆弱なため、災害を受けやすい環境下にあり、過去に数多くの水害や土砂災害に繰り返し見舞われてきました。

このため地域住民は災害に大きな不安を抱きつづけておりまして、自然災害に対する安全性の確保は最も重要な課題であり、基本的な生活基盤整備である治水砂防事業を緊急かつ計画的に実施することは極めて大きな意義があります。自然災害から県民の生命・財産を守るため、当協会の活動を通じて、国・県をはじめとする関係当局に特段のご高配を賜わり、治水砂防事業の推進に努めて行かなければならないと存じます。そのためにも、当協会が益々発展いたしますよう、会員皆様の一層のご支援ご協力をお願い申し上げましてご挨拶といたします。

全国治水砂防促進大会の開催と要望活動

平成17年11月15日に全国治水砂防促進大会が開催されました。本県からは、寺島会長以下80名余が参加しました。今回は大会に先立ち「刻（とき）を読む」と題して山田美也子さん（文化キャスター）の特別講演がありました。その後、促進大会は綿貫会長の挨拶、来賓祝辞に続き、会員代表の宮崎県西臼郡日之影町長工藤訓氏、愛媛県西条市長伊藤宏太郎氏の両名が意見発表をされました。その後、大久保理事長より今後の促進活動並びに大会決議の提案が行われ、満場一致で採択されました。また大会終了後、寺島会長をはじめ30余名により県選出国会議員及び財務省・国土交通省に対し18年度砂防事業関係予算の確保等について要望活動を行いました。

環境砂防会議

長野県は、アルプスなど3000m級の嶺々が連なり、日本の屋根と呼ばれています。また、日本を代表する信濃川、天竜川、木曽川といった河川の源流がそこに生まれ、美しい自然を織り成し、その中で多様な生き物らの生態が営まれています。反面、急峻な地形と脆弱な地質がもたらす自然災害は、度々、私たち人間の住環境を脅かしてきました。

このような状況下において、豊かな自然環境と融合する砂防事業に取り組むべく、砂防課では、『環境砂防会議』を平成３年より例年開催してきました。本年は、若手技術者による計画から実施までを事例発表を通じて発表いただきました。さらには、経済・金融界に環境配慮という視点を結びつけられた筑紫みずえ氏を講師にお招きし、土木といった枠から一歩視点を広げてみました。

《　開催日時　》

日　時　：　平成17年10月20日(木)12時30分から17時まで
場　所　：　長野県勤労者福祉センター　　ホール
参加者　：　県土木職員並びに市町村職員（約100名）

《　事例発表　》

・砂防えん堤に計画した鳥類の人工巣穴について
　臼田建設事務所建設課　技師　続木節子
・急傾斜地崩壊対策工事の事例（ﾉﾝﾌﾚｰﾑ工法について）
　上田建設事務所建設課　技師　浅野弘貴
・環境に配慮した砂防事業
　【視察結果の報告】既設えん堤のスリット化を実施した事例
　　長野県砂防課　主任　坪田浩昭

公演中の筑紫みずえさん

《　講　演　》

「エコファンド－緑の金融革命－」　株式会社グッドバンカー代表取締役　筑紫みずえさん
「砂防と環境－魚道と景観－」　長野県土木部　参事兼砂防課長　原義文

詳細は長野県ホームページをご覧下さい。

砂防講演会、県砂防課長との意見懇談会

平成17年５月18日に、砂防会館において社団法人全国治水砂防協会第69回通常総会が盛大に開催されました。本県からは山田会長をはじめ多くの会員が出席しました。

総会終了後には、県協会役員により、県選出国会議員に対し、砂防事業費の確保等に関する要望を行いました。

その後、海運クラブにおいて砂防講演会及び県砂防課長との意見交換会を開催しました。講師には国土交通省砂防計画課長の亀江幸二氏（当時）をお招きし、「砂防行政の現状と課題」についてお話をお聞きしました。講演では、16年の災害の状況や、三位一体改革の状況、新たに創設された総合流域防災事業の概要等の説明があり、会員の皆様も熱心に聞き入っていました。

また、新たな事業への取り組みの一つとして、県砂防課長と会員の意見交換会を実施しました。県からは16年の県内災害状況報告、今年度の事業方針・予算等の説明があり、県協会事務局としては70周年記念事業の概要、県協会の今後の活動のあり方等に関する説明を行いました。意見交換では県事業に対する意見の他、災害の経験談や砂防事業の必要性を訴える発言もありました。

協会活動に関するアンケート実施結果

このアンケートは県協会の今後の活動のあり方について会員の意向を確認するため実施したものです（回答率74.５%）。現在実施している事業の必要性を中心にお聞きしたところ、大部分の事業については「充実」「現状のまま」の合計が70%以上となりました。また、新たな事業として緊急・重要情報のメール配信を希望する会員が９割近くありました。

その他意見としては、事業実施にあたっては内容・費用の検討を十分に行うこと、県選出国会議員との懇談会を継続してほしい、雪崩防災週間資料購入は市町村判断に任せるべき、等の意見の他、砂防事業の重要性を回答された会員が何名かありました。

県協会事務局としては、このアンケートの結果を基に17年度事業計画を作成したほか、今後も事業のあり方について検討してまいります。

1　継続事業　　（単位：%）

項　　目	充　実	現　状	縮　小	廃　止	わからない	その他
砂防講演会	13.2	72.4	7.9	2.6	3.9	0
国会議員との懇談会	14.5	59.2	11.8	7.9	6.6	0
民放テロップ	13.2	67.1	10.5	2.6	6.6	0
環境砂防会議講演会	10.5	71.1	6.6	1.3	10.5	0
全国治水砂防促進大会要望活動	14.5	64.5	11.8	3.9	5.3	0
全国主催ゼミ等旅費一部負担	7.9	43.4	9.2	25.0	11.8	2.6
雪崩防止週間資料購入	6.6	43.4	26.3	10.5	13.2	0
砂防施設現地見学会	10.5	71.1	14.5	1.3	2.6	0
全国総会要望活動	15.8	57.9	17.1	0	9.2	0
県砂防課との意見交換会	15.8	63.2	10.5	2.6	7.9	0
災害現地見学会	14.5	56.6	10.5	3.9	14.5	0

2　新規事業・ニュースレター編集方法

	実施すべき	必要なし	わからない	現　状
土砂災害警戒区域現地勉強会	75.0	6.6	18.4	
緊急重要情報メール配信	88.1	5.3	6.6	
会員意向集約アンケート	69.8	9.2	19.7	1.3
「砂防ニュースレター長野」の編集方針				
①会員からの意見掲載・情報提供	68.4	10.5	19.7	1.3
②会員からの災害発生状況及び対応報告	68.4	15.8	13.2	2.6
③警戒区域等の指定等会員からの情報提供	71.0	14.5	13.2	13.2

現地研修会を２回開催

県協会では新規事業として、会員や市町村職員を対象に、災害対応等に直接関わった会員等から当時の状況を聞き、現場を直接見ることにより執務の参考としてもらうため、現地研修会を２回実施しました。１回目は17年６月13日に平成16年の台風22号・23号により大きな災害を受けた旧八坂村、池田町の災害現場を、２回目は10月14日に県内で初めて土砂災害警戒区域の指定を受けた白馬村の警戒区域を見学しました。

第１回目は旧八坂村の明日香荘に集合し、当時の村長であった大日方一繁氏及び池田町長の嶋袈裟盛氏から、災害が発生した数日間の状況と役場の対応を中心にお話をうかがいました。両町村長ともに、役場職員の的確な対応により人的被害を防いだこと、消防組織との連携が不可欠であることをお話しいただきました。昼食の後、明日香荘駐車場から金熊川越しに笹尾地すべりの現場を遠望した後、大洞地すべりの現場を見学しました。引き続いて池田町に移動し、滝ノ沢土石流の現場も見学しました。いずれの現場においても、被災状況や対策工事の概要について、県犀川砂防事務所の職員が説明を行いました。

第２回目は白馬村役場に集合し、県から土砂災害防止法及び土砂災害警戒区域の概要について説明を受けた後、福島信行白馬村長から警戒区域指定にあたっての村の対応等について説明がありました。併せて土砂災害情報相互通報システムの実演も行われました。その後、土石流の警戒区域にあたる峰方沢の現地と、急傾斜地の警戒区域にあたる倉下地区の現場を見て回りました。参加者は多くが市町村職員で、区域指定に関する地元への説明等に関し意見が交わされていました。今後も、会員の意向を聞きながら、研修会等を実施してまいります。

土砂災害警戒区域等指定状況

平成13年度から土砂災害防止法に基づく砂防基礎調査を実施してきました。そして平成17年12月26日に市町村の御協力を頂きながら白馬村（急傾斜地の崩壊）、朝日村、美麻村、飯島町において土砂災害警戒区域等が指定になり、これにより県内の指定箇所数は500箇所を越えました。昨年度には、白馬村（土石流）・泰阜村（土石流）において土砂災害警戒区域等の指定を行い、本年度に入ってからは、８月11日の南箕輪村、伊那市の指定に続き1月末までに白馬村、小谷村、朝日村、美麻村、飯島町及び喬木村で指定を行いました。10月からは安曇野市（旧豊科町）、諏訪市において住民説明会が開催され、現在指定に向けての手続きが進められています。今後、年度内には大町市、泰阜村等において住民説明会が予定されています。この基礎調査は、現在県内65市町村（旧市町村単位）において実施されています。

今後も調査が完了したところから順次住民説明会を開催し、区域指定を進めてまいります。指定された土砂災害警戒区域については、市町村により避難所の設定や土砂災害ハザードマップ作成等の警戒避難体制の整備が行われることになります。

県内の土砂災害警戒区域等の指定状況　（平成18年1月末現在）

土砂災害警戒区域

市長村名	自然現象の種類	指定箇所数	告示年月日	告示番号
北安曇郡白馬村	土石流	79箇所	平成16年12月6日	長野県告示第642号
下伊那郡泰阜村	土石流	22箇所	平成17年3月31日	長野県告示第179号
伊那市及び上伊那郡南箕輪村	土石流	6箇所	平成17年8月11日	長野県告示第358号
北安曇郡白馬村及び小谷村	急傾斜地の崩壊	166箇所	平成17年12月26日	長野県告示第556号
東筑摩郡朝日村	土石流	31箇所		長野県告示第552号
	急傾斜地の崩壊	48箇所		長野県告示第554号
北安曇郡美麻村	土石流	35箇所		長野県告示第553号
	急傾斜地の崩壊	163箇所		長野県告示第555号
上伊那郡飯島町	土石流	22箇所		長野県告示第551号
下伊那郡喬木村	土石流	41箇所	平成18年1月30日	長野県告示第44号
	急傾斜地の崩壊	182箇所		長野県告示第46号
計		795箇所		

土砂災害特別警戒区域

市長村名	自然現象の種類	指定箇所数	告示年月日	告示番号
北安曇郡白馬村	土石流	18箇所	平成17年3月31日	長野県告示第180号
下伊那郡泰阜村	土石流	56箇所	平成17年4月14日	長野県告示第212号
伊那市及び上伊那郡南箕輪村	土石流	5箇所	平成17年8月11日	長野県告示第357号
北安曇郡白馬村及び小谷村	急傾斜地の崩壊	154箇所	平成17年12月26日	長野県告示第550号
東筑摩郡朝日村	土石流	27箇所		長野県告示第546号
	急傾斜地の崩壊	48箇所		長野県告示第548号
北安曇郡美麻村	土石流	30箇所		長野県告示第547号
	急傾斜地の崩壊	153箇所		長野県告示第549号
上伊那郡飯島町	土石流	15箇所		長野県告示第545号
下伊那郡喬木村	土石流	21箇所	平成18年1月30日	長野県告示第45号
	急傾斜地の崩壊	161箇所		長野県告示第47号
計		688箇所		

維持管理ボランティアの活動状況（伊那建設事務所管理計画課）

平成17年12月６日（火）、駒ヶ根市役所にて「ねずみ川関連地域連絡会」と駒ヶ根市、伊那建設事務所の３者で「砂防等施設維持管理ボランティア活動支援事業」の確認書が、県下で３番目、南信では初めて取り交わされました。

「鼠川」は、中央アルプスから流れ出る支流が集まり、市街を経て天竜川に合流している一級河川で、市内の小学校や中学校の敷地の中を流れている、市民に身近な川です。又、昭和22年には砂防指定も行われており、かつては度々土石流被害や洪水もありましたが、上流の４基の砂防えん堤や護岸工により近年は大きな災害には見舞われなくなりました。

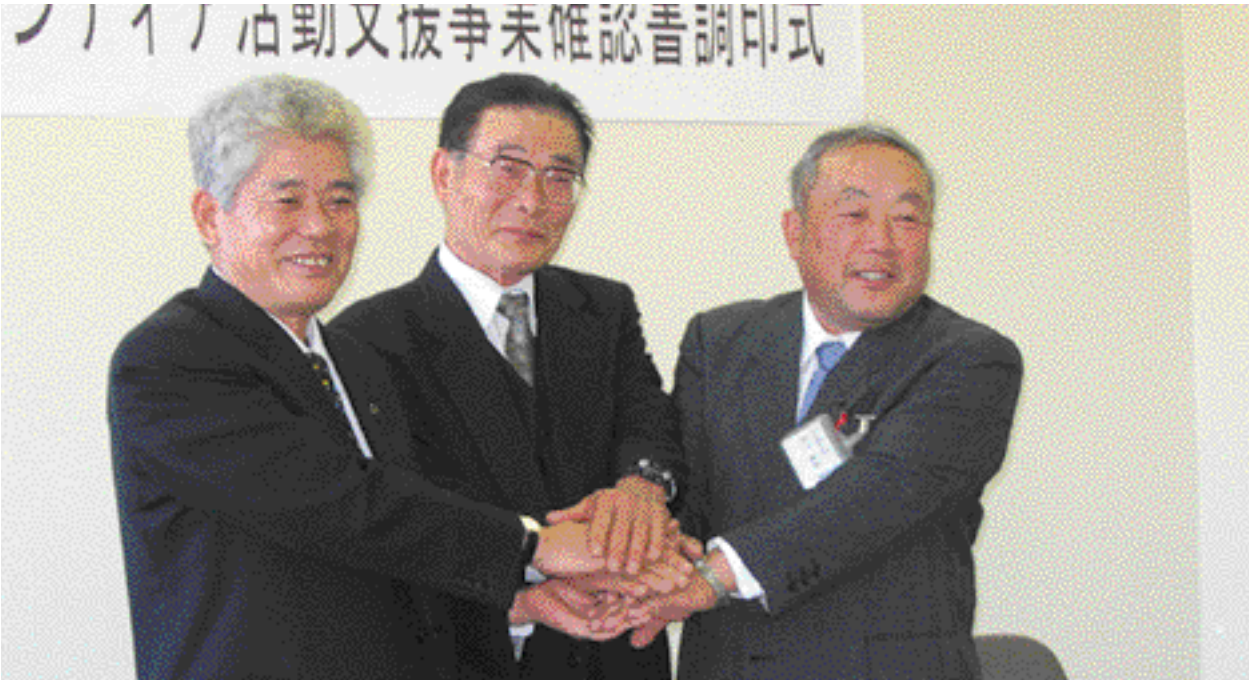
鼠川沿線の区や愛護団体がそれぞれ定期的に河川清掃や、アレチウリの駆除、又、花火大会、鱒つかみ大会などのイベントの開催を続けていましたが、平成15年４月から一体的に連携して活動を行うよう、「ねずみ川関連地域連絡会」を結成しました。

この会の会長である塩沢さんは、確認書の締結にあたり、「今回の調印を起点として、さらに一層の努力をし、この鼠川を愛し、そして美しい川にしていくという強い信念を持って、方向付けをしてまいりたい。」と抱負を語ってくれました。

伊那建設事務所としても、この活動を通じ、地域の皆様が鼠川を身近な「私たちの川」として、砂防等施設維持管理の上伊那のモデルとなっていただけるよう、期待すると共に支援していきたいと思います。

区民ふれあい広場手伝い作業状況

河床草刈、河川清掃状況



左から中原市長・塩沢会長・松下所長

小川村薬師沢の今昔

薬師沢にある明治時代に造られた石積み砂防えん堤等は、今もその役割をしっかりと果たしています。それは稲丘東地区の皆様が、『薬師沢砂防惣代』さんを中心に、渓流内に繁茂した草木の除去等のきめ細やかな管理を明治から今日まで行って下さったからです。

本年度、「砂防等施設維持管理ボランティア活動支援事業」の創設とともに、土尻川砂防事務所では、地域の皆様と職員との ”協働 ” した維持管理の取り組みを本格化いたしました。去る、10月28日(金)には、２回目の協働作業をした後に、懐かしき薬師沢の情景と同じアングルで、記念写真を撮りました。最前列には、当時、学生服を着られた『薬師沢砂防惣代』さんが、懐かしき薬師沢、現在の薬師沢の写真双方に並ばれています。

古き薬師沢

現在の薬師沢

本年度、県が管理する砂防施設等におきまして、草刈りや土砂の撤去といった日頃の維持管理を地域の方々との協働で行う「砂防維持管理ボランティア活動支援事業」を創設しました。なお、12月末現在、６団体の皆様と県（各事務所長）との間において、確認書の締結をしていただいております。

県では砂防施設等の維持管理を行う団体を支援します

対象団体：自治会、商工会、老人クラブ、育成会、企業、学校等の他、この事業のために組織された任意団体も含みます。

対象事業：砂防等施設（砂防設備、地すべり防止施設及び急傾斜地崩壊防止施設）の草刈り、土砂の除去等

支援内容：①1計画あたり2万円を上限として、以下の経費を負担します。

- **草刈り機、チェーンソー等作業に必要な機器の燃料費**
- **ゴミ運搬費、処分費**
- **損害保険料**
- **その他必要な経費（飲食代は除きます）**

②建設事務所等にある草刈り機等必要な機材・資材をお貸しします。

「砂防等施設維持管理ボランティア活動支援事業」における確認書の締結状況

平成17年12月末現在

渓流名	市町村	箇　所	確認書締結書団体名	代表者名	締結月日	担当事務所
東条川	筑北村（旧本城村）	大沢地区	大沢友志会	小林　常吉	平成17年９月20日	犀川砂防事務所
乱橋川	筑北村（旧本城村）	乱橋地区	乱橋地区水管理組合	宮澤　昭二	平成17年９月20日	犀川砂防事務所
岩井堂沢	松本市（旧四賀村）	四賀地区（本町）	本町町会	市川　東一	平成17年９月28日	犀川砂防事務所
両瀬沢	松本市（旧四賀村）	両瀬沢砂防えん堤	両瀬町会	川窪　和夫	平成17年９月29日	犀川砂防事務所
薬師沢	小川村	稲丘東地区	薬師沢砂防惣代	松尾　治吉	平成17年10月28日	土尻川砂防事務所
鼠　川	駒ヶ根市	赤穂地区	ねずみ川関連地域連絡会	塩沢　淳一	平成17年12月６日	伊那建設事務所

平成１６年度浅間山噴火の対応と今後の取り組み

小諸市長　芹　澤　　勤

小諸市は、浅間山への登山道の入口となっており、黒斑コース・火山館コースがあり、活火山の魅力に誘われ多くの登山者が訪れております。

入山の規制については、2004年４月１日から気象庁の火山活動度レベルに応じた規制を実施してきたところです。

2004年９月１日午後９時２分浅間山が噴火をしたという「臨時火山情報」が入り小諸市では、「浅間山噴火に伴う警戒対策本部」を設置し、対応をしてまいりました。

この噴火により火山活動度レベルが２から３へ切り替り火口から半径４ｋｍ以内が警戒区域となりました。

当日の噴火は、夜間ということもあり、登山者の安否を中心に情報収集をおこなってきました。

翌日からは、登山道入口において、市職員による登山者への案内指導を１週間実施してきました。

その後、浅間山は９月15日から17日かけて連続噴火し、降灰の被害をもたらしました。

中規模の噴火は2004年11月14日でおさまり、2005年６月21日には火山活動度レベルが３から２へ切り替りました。

火山噴火につきましては、小諸市だけでなく近隣自治体との連携も必要となります。

実際に噴火をすると各自治体の共通の悩みや課題が見えたのではないでしょうか。特に、関係機関・近隣自治体との連絡体制と情報の共有化の大切さを学びました。

今後の取り組みとして、噴火により長野県・群馬県による県境を越えた「浅間山防災対策連絡会議」が設置され、大規模噴火への対応が検討されることとなりました。また、小諸市では、平成16年度・17年度において防災行政無線整備を図り、特に、浅間山に関係する整備については、屋外拡声子局（防災用スピーカー）を登山道の入口、火山館（アンサーバック機能付）へ設置をし、登山者・観光客に対して市役所・警察署・消防署から直接、防災情報を伝達できることとなりました。

今後は、関係機関等との連携をより深め防災対応を実施してまいりたいと考えております。

砂防事業につきましては、浅間山と共生していかなければならないので、自然を大切にし、生命・財産を守り、安心して生活できる総合的な砂防事業の促進を切に要望します。

砂防ボランティアだより

●平成17年度砂防ボランティア協会総会が開催される

平成17年５月23日(月)長野県労働会館において、平成17年度砂防ボランティア協会総会及び講習会が開催され、会員51名が出席しました。議事の中で平成16年度の事業報告、会計報告、平成17年度の事業計画、役員の改選について承認されました。また、引き続き行われた講習会では、平成16年10月の新潟中越地震による被災地域において、土砂災害危険箇所等の緊急点検調査の支援活動を行った、松本久志姫川砂防事務所工務課長と唐澤行雄長野県砂防ボランティア協会長に講演をしていただき、今後のボランティア活動に参考となる、当時の貴重な体験談をお話しいただきました。

また、原参事兼砂防課長より砂防事業に関する最近の話題について講演がありました。

●平成17年度斜面判定士に関わる講習会が開催される

平成17年11月10日(木)長野市サンパルテ山王において「平成17年度北陸・信越地区斜面判定士に関わる講習会」が開催され、北陸・信越地区（新潟、富山、石川、長野）の砂防ボランティア協会に属する会員を中心に108名の方が受講されました。昨年度の新潟中越地震においても多くのボランティア活動が行われ、その中でも災害発生時等における斜面判定士としての活躍がますます期待されております。

なお、講習会の内容は下記のとおりです。

講習会
「斜面内の間隙水圧変動と安定性」　信州大学名誉教授　工学博士　川上　浩氏
「土砂災害情報と警戒避難」　長野県土木部参事兼砂防課長　原　義文氏
「行政は砂防ボランティア・斜面判定士に何を求めるのか」～我々は、それにどう応答するのか～
砂防ボランティア全国連絡協議会長　砂防フロンティア研究所長　農学博士　田畑茂清氏

「合併に伴う退任にあたって」

旧上村長　山　﨑　昭　文

南信州遠山郷は、南アルプスを前衛に大自然と豊富な森林や、山村、原風景を残しその暮らしの中に、国の重文指定霜月祭をはじめ多くの伝統文化が保存伝承されています。

今日物から心への時代、日本人の価値観が田舎指向と言われる中、今も尚全てに厳しい生活環境にあるが、旧上村の住民は自然・歴史・文化に亘る固有の財産を誇りに地域づくりに頑張ってきましたが、大きく遅れている社会基盤整備が、住民の生活を守り将来展望を拓くものと行政と住民共に自律努力の中、少子高齢化に加え国・県の財政改革等の影響を受け、この地に住みたいと願う住民を、固有の財産を守ることが難しいと判断し住民合意のもと、昨年10月飯田市に合併をしました。私は「合併も自立の道」と住民の自律への意識と、村固有の大切なものが生かされ地域の活力が高まることへの期待と、南信州地域が願う三遠南信道の早期完成を祈念する次第です。

三期十余年の間大変お世話様になった多くの関係者の皆様に心から感謝と御礼を申し上げ退任のごあいさつといたします。

「筑北村誕生にあたって」

旧本城村長　一　之　瀬　　守

地域とともに築いたふるさと本城村が、平成の大合併で、本城村、坂北村、坂井村が、平成17年10月11日に合併し筑北村が誕生いたしました。

本城村は、明治22年村制施行し以来、117年の歴史ある県内屈指の由緒ある村であります。

この長い歴史のなかで、様々な困難を村民のたゆまぬ英智と努力によって克服して現在の誇り高い本城村を構築して参りました。明治、大正、昭和、平成と時代が流れる中で、大不況、長い戦争の苦境を乗り越え目ざましい早さで復興が進み新しい村造りに村民が一丸となって取り組みました。

その中で忘れてはならない、昭和34年台風の大災害で10数名の尊い人命が失われ、家屋、農地、道路、河川も大きな災害を受け被害は甚大でありました。

この復興には、国、県、関係機関村民が総力を傾け復旧に努めたことは、今では尊い教訓として甦ってまいります。

私どもが小さい頃から、馴染み親しんだ本城村がなくなるのは寂しい限りですが、時代の流れの中で、来るべき地方分権にむけて新しい視野に立ち豊かな大地と美しい自然にいだかれた筑北村が、更に発展することを祈念するものであります。

「砂防への思い」

旧坂北村長　青　柳　修　三

在職六年半の間に実施し竣工した旧村に関わる砂防関係事業は、(1)小仁熊ダム建設、(2)竹場集落急傾斜地崩落防止、(3)昭和町おかめ山土砂崩落対策等がありました。特に小仁熊川総合開発多目的ダム建設は、議員在任中の昭和50年代から調査開始され、平成16年竣工に至るまで約30年の歳月と超200億円の工費を投入し、本城坂北両村にまたがる大規模工事でした。脱ダム理念から見れば正に批判の対象となることかも知れません。然し、地元の長年の悲願であった台風雨等による土砂流出や洪水の被害、また常習的干ばつによる被害が全て解消されるところとなり、これを享受する地域住民として毎年の顕著な成果に改めて深く感謝をしているところです。財源的に年々厳しさを増す時代となりましたが、国県による砂防事業が、日本の国土の保全と住民の暮らしの安全のため、治山治水の見地から、今後も強力に推進されることを心から期待してやみません。

「退任の御挨拶とネパール砂防事業視察の思い出」

旧坂井村長　山　田　一　榮

平成11年県治水砂防協会長を御引受けしてより、約6年間県下皆さんの御協力により、務めて参りましたが、昨年合併により、村長及び会長を退任しました。さて、日本の国は、国、地方を通じて1,000兆円を超える借金王国となり、国家財政破産の危険をはらんでおり、大変厳しい時代となりました。しかし、国民の生命財産を守る公共投資砂防事業こそ、国、県の根幹的事業であり、砂防協会の一層の御発展を心から期待致します。在任中忘れ得ぬ思い出は沖縄県をはじめ全国各地の砂防事業の現地視察でしたが、特に日本の援助による砂防技術を取り入れ、国土保全を図っているネパールの現地視察でした。日本から派遣された技術職員が懸命に働いており、その職員との対話と、飛行機で1時間の世界最高峰のヒマヤラ山脈のエベレスト山の峰近くまで行き、周辺の遊覧飛行は、正に大自然の神秘とその創造主の偉大さに心が打たれ、何とも云い様のない壮厳さでした。

二度三度行きたくなるネパール王国でした。退任に当り、思い出を少しのべて御礼の御挨拶と致します。有難うございました。

「合併に伴う退任にあたって」

旧開田村長　千　村　　勇

このところ町村合併推進がにわかに高まりをみせ、世論も硬直から軟化へと変わり、国からの交付金を受けて成り立っている自治体は、選択の出来ない状況にあります。我が村も、住民投票の賛成多数を受けて協議を進め、法定協の参加と調印を経て、合併にこぎつけました。

村名の「開田」は冷害常習の地で、主食の確保を願っての命名であり、米は貴重品でした。その後の転作政策の勧めで、稲作以外の転換には随分と戸惑いました。

時代が変わり転作がなんなくされて、先人の「かいでん」の苦労を思う時、時の為政者として大変すまない気持ちでいっぱいであります。

古い話ですが、昭和58年９月末の夕刻、かってない時間雨量47mmで村内一円が未曾有の被害を受けました。幸い人的被害はなかったものの、県・村を合わせて60億円余の被害がありましたが、これも３年の内に原形復旧ができ、その後の雨では要所の固めができている成果が示され、全くに近い程被災することもなく、安心な日々を過ごしております。これも一重に制度と運用のおかげであると、そのありがたさを感じております。合併はできましたが、今後は住み良い町作りを進めることが、我々に課せられた任務であります。町政運営が進展することを願うとともに、立村から村政運営に携わってきた多くの先輩の方々に敬意と感謝を申し上げます。

「新任のあいさつ」

長野県治水砂防協会
書記　高橋千代子

拝啓　今年の冬は異常気象で雪が多く、皆様も大変な御苦労かと心痛しております。ところで、酒井松江さんが退職されました。後任の高橋千代子と申します。

まだ解らない事ばかりですが、がんばりますのでよろしくお願い致します。

●第37号
発行　長野県治水砂防協会
〒380－8570
長野市大字南長野字幅下692－2
長野県土木部砂防課内
TEL 026(232)0111(代)
FAX 026(233)4029
印刷（株)信光社　026（267）5353